


クラス	104	担当教員	吉村 輝彦
	テーマ	場と縁のデザインとマネジメント	
	著書・論文 研究課題等	[著書・論文]「住民主体の都市計画」(共著、学芸出版社)「まちづくりの百科事典」(共著、丸善)「環境計画・政策研究の展開」(共著、岩波書店)「都市計画の理論」(共著、学芸出版社)「Innovative Communities」(共著、United Nations University Press)等。 [研究課題]「場」と「縁」のデザインとマネジメント学。まちづくりの支援的政策環境及び協働型まちづくりを支える住民参加システムについての実践的研究を行う。	

ゼミナール概要

キーワード：まちづくり、場と縁（つながり）のデザインとマネジメント、ファシリテーション、参加と協働

<自分自身の問題意識>

日本や開発途上国において、人々が幸せに生きていく、住んでいく、営みを行う「福祉」や「開発」のカタチはどのようなものであろうか。また、それを実現するためにはどのようなアプローチが求められるのであろうか？こうした問題意識のもとで、日本や開発途上国で、「福祉社会開発」を進めていくためには、自分たちで意思決定を行い、自分たちで実行できる仕組みを作っていくことが重要である。ここでは、参加や学びを促す仕組み、計画づくりや事業づくりの支援の仕組み、環境や福祉を射程にいれたまちづくりのあり方、社会的起業を含めて地域を射程に入れた経済活動や生計活動を進めていくための仕組みが含まれる。

この実践では、様々な人が出会い、話し合い、交流し合う「場」（機会や空間）を創り出し、あるいは、人と人をつなぎ（デザイン）、やわらかく、しなやかに運用していくこと（マネジメント）が鍵になる。



<ゼミのねらい>

以下を念頭に、共感創出力（エンパシー）、対話創発力（コミュニケーション）、共創支援力・協働促進力（ファシリテーション）に関わる技法（スキル）とココロ（マインド）を育む。

・何かを一緒にやっていきたいという感性に関わる共感。自分自身が学び、変わるプロセスを楽しむ。

- ・みんなでわいわいがやがや（コンヴィヴィアリティ）で元気づくり。地の知を紡ぐ、開発を楽しむ。
- ・アサーティブな姿勢でコミュニケーション。誠実・率直・対等を心がけながら、自分の想いを相手に伝える。
- ・縁やネットワークを通じた様々な出会いや創発：つなげる・つながる。
- ・バルネラビリティ（弱さ・脆さ）の価値。自分を弱い立場に置くことで、他人の力を引き出す。
- ・開くこと（開放型）で、新たな展開を生み出す。情報は発信するところに集まってくる。リソースシェアリング・オープンソースで知を紡ぐ。
- ・トラブルをエネルギーに変えていくこと。

※教員が関わる現在進行中のプロジェクトに関心があれば、積極的に関わって欲しい。

<授業計画>

各自の問題関心を踏まえて、総合演習における取り組み課題を設定するが、フィールド調査、グループ討議や発表、また、実践的な活動に取り組む。このゼミを通して、様々な技法（グループ討議、ファシリテーション技法）の習得を目指し、また、論理的思考能力・質問力や対話力・コミュニケーション能力・発信力を高める。

こうした力は、社会のどんな現場やフィールドにおいても役立つ（特に、青年海外協力隊など地域を支援する仕事には不可欠な力）。並行して、公務員試験などを念頭に各自の基礎的知識や基礎力アップも目指す。また、勉強会や交流会、フィールド調査、ゼミ合宿の開催、教員が関わる現場への同行など様々な機会を創出していくとともに、学生それぞれの関心やニーズにできる限り応えていきたい。それゆえ、ゼミでは学生の意欲的かつ主体的な参加や共同して取り組む姿勢が求められる。

使用テキスト

特に使用しない。適宜資料を配布する。

学生へのメッセージ

開発の基本的な理解とともに、学生諸君の現場でのフィールドワークをもとに、グループ討論、発表ならびに議論を行っていくので、みなさんの主体的な参加を期待しています。